

# 日本教育経営学会ニュース

2022年度 第1号 (2022年7月30日発行)

## 日本教育経営学会事務局

<http://www.jasea.jp/>

〒448-8542

愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学 教育支援専門職養成課程

教育ガバナンス講座 風岡研究室内

TEL: 0566-26-2559

Eメール: [jimu@jasea.jp](mailto:jimu@jasea.jp)

### 【目次】

1. 2021年度第5回常任理事会報告	1頁
2. 2022年度第1回常任理事会報告	4頁
3. 2022年度全国理事会報告	9頁
4. 2022年度総会報告	12頁
5. 第62回大会報告	17頁
6. 各種委員会等報告	17頁
7. その他	18頁

## 1. 2021年度第5回常任理事会報告

日時: 2022年2月28日(月) 14:00~16:00

場所: オンライン (Zoom 会議)

出席者: 木岡一明(会長)、安藤知子、植田みどり、貞広斎子、末松裕基、曾余田浩史、南部初世、水本徳明、元兼正浩(常任理事会構成メンバー)、雲尾周(事務局長)、風岡治(事務局次長)

欠席者: 青木栄一、竺沙知章(常任理事会構成メンバー)、大野正親、水野清隆、安田一郎(幹事)

### <報告事項>

#### 1 会務報告

##### (1) 事務連絡

雲尾事務局長より、前回12月26日の常任理事会翌日以降、新入会員1名を加え613名の会員現況であること、年度末退会予定者6名、退会取り下げ者1名がいること、寄贈図書8冊があったことが報告された。

#### 2 第62回大会について

安藤大会実行委員会事務局長より、学会HPで大会案内の周知、自由研究発表の申し込みを受け付け中との報告があった。大会プログラムについて、研究推進委員会、紀要編集委員会のランチミーティング、ラウンドテーブル等について、3月中にプログラム作成、4月当初にプログラムを公表したいことから、原稿の作成について依頼された。

なお、末松理事より、大会プログラムにつき、若手フォーラムとの時間帯の重複を避けるためラウンドテーブル企画を別日に設けたい旨、若手フォーラムの時間について17時30分~19時30分のままで開催したいとの報告があった。

安藤大会実行委員会事務局長より、懇親会はZoom開催の検討をしていると報告された。

#### 3 各種委員会活動計画について

### (1) 紀要編集委員会

貞広委員長より、紀要 64号の編集状況について報告された。査読プロセスの課題及び英文校閲の予算化について協議され、今後も引き続き検討していくこととされた。

### (2) 研究推進委員会

欠席の竺沙委員長より連絡があり、報告事項は特にないとのことであった。

### (3) 国際交流委員会

欠席の青木委員長より連絡があり、3月16日(水)に実施する公開セミナー「英語論文を書くということー『私の経験』の共有ー」の受付を開始したと報告があった。

### (4) 実践推進委員会

安藤委員長より、3月9日、10日に委員会の開催を予定していること、2回目の実践事例研究会を4月16日(土)に予定していること、報告者として佐々木会員、武井会員に依頼していると報告があった。

### (5) 新型コロナウイルス感染症対策に伴う教育経営課題に関する特別委員会 (COVID-19 対応特別委員会)

元兼委員長より、1月マンスリー研究会を実施したこと、これまで12回のマンスリー研究会を毎月開催してきたが、特別委員会が3月末に任期満了となるためマンスリー研究会は閉じるとの報告があった。また、特別委員会は終了するが、今後も科研として学会に貢献したいと報告された。なお、木岡会長より、年度末で任期を終える本委員会と元兼委員長に対し、流動的で難しい課題を丁寧に追究いただき感謝している旨、労いと謝意が示された。

## 4 担当理事活動方針・予定等について

### (1) 褒賞担当

水本理事より、審議事項で取り扱うと説明があった。

### (2) 教育関連学会連絡協議会担当

末松理事より、3月12日(土)に連絡協議会の総会が開催予定であり、木岡会長が参加することが報告された。

### (3) 外部機関連携担当

植田理事より、引き続き、教職員支援機構、国立教育政策研究所との連携を進めると報告された。

### (4) ラウンドテーブル担当

曾余田理事より、第62回大会のラウンドテーブルについては、大会の中で行わず、研究倫理について、オンラインで年2回ほど学習会という形で開催していくことが報告された。

### (5) 若手ネットワーク担当

末松理事より、大会企画について、若手研究者を取り巻く研究環境や、若手から見た教育経営学における新たな研究課題および方法、教育経営学の知的蓄積の継承と刷新をテーマに議論を重ねてきたこと、それらを踏まえて、現在の教育経営のあり方、今後のあり方を議論していきたいと報告があった。

## (6) 研究倫理担当

貞広理事より、報告事項は特にないとのことであった。

### <審議事項>

#### 1 第19回(令和4年(2022)年度)日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について(依頼)

雲尾事務局長より、候補者の推薦について諮りたいとの説明があった。水本理事より、これまでの慣例では、学会褒賞受賞者で該当者がいた場合、推薦候補者として常任理事会で審議し推薦するとしていたこと、前期では該当者がいなかったことを確認した。今回について、学会褒賞受賞者のうち、推薦基準に該当する45歳未満の方を候補者として推薦することで承認された。

#### 2 紀要のEBSCOhost収録依頼への対応について

雲尾事務局長より、紀要論文について、学術論文データベース(EBSCOhost:”エブスコホスト“への収録依頼が来ていることについて、前回常任委員会で継続審議となった際その他学会の動向についての調査意向を受けての調査の結果報告があり、本学会として「諾」と回答することで承認された。

#### 3 学会褒賞

##### (1) 功労賞

水本理事より、要件に該当する者はいないため2022年度の「候補者はなし」と提案があり、承認された。木岡会長より、これに関わって、今後、名誉会員規程の実効性について議論していただきたいと提案があった。

#### 4 2021年度決算案(暫定案)

雲尾事務局長より、資料に基づき2021年度決算案が提案され、承認された。なお、木岡会長より、当初予算ではゼロ査定であった関係機関連携、ラウンドテーブル活動、若手ネットワーク活動について、必要な経費として予備費から支出したとの説明があった。

#### 5 2022年度予算案(暫定案)

雲尾事務局長より、資料に基づき2022年度予算案が提案され、承認された。木岡会長より、将来構想検討プロジェクトの立ち上げに伴い、2022年度予算として計上するとの説明があった。

#### 6 その他

##### (1) 2022年度前半の学会運営について

雲尾事務局長の提案に対して、常任理事会の開催予定(2022年度第一回4月、第二回9月、第三回1月)、従来通りの学会ニュース編集・発行日程を了承した。各常任理事会開催日については、後日、日程調整することになった。

### <協議事項>

#### 1 情報関係について

##### (1) 情報のアーカイブ化・学会ホームページについて

雲尾事務局長より、第4回常任理事会において時間不足のために先送りされたことが説明され、①アーカイブ化についてのコンテンツの検討、②ホームページでの委員会の活動の掲載、③沿革の更新、④学会ホームページへの情報掲載の方針を検討するための意見をいただきたいと提案があった。

水本理事より、アーカイブ化については規定改正の経緯が分かるように旧規定を残しておくことが大切という議論であったこと、併せて予算・決算を含む総会資料の保存も必要であること、安藤理事より、

ホームページ掲載についてのルールを明文化することが必要といった意見があった。

木岡会長からの、会員からの研究会案内等についてどう対応したらよいかの発議には、協議の結果、基準をつくりコーナーを設けて掲載していくことを総会にて提案することになった。

## 2 本学会のあり方について（自由討議）

### （1）将来構想検討プロジェクトの審議状況

末松理事より、第3回会合を開催し、ラウンドテーブルの開催方法・企画、研究倫理について議論をした旨、報告があった。曾余田理事より、研究倫理については、紀要、実践推進に大きく関わるため、そこにアプローチをしていきたいことが動機であること、他学会では教師教育学会が集中的に議論をされ、規定策定にあたってワーキングを立ち上げ、研究倫理規定を策定されていること、これに関わって研究会や学習会を続けていることが報告され、本学会においても相当するものを作っていく必要があること、こうした議論を年2回程度積み上げていく必要があるという提案があった。

### （2）意見交流

水本理事より、大会の自由研究発表について、研究指導を受けたことがない会員が増加し、フィルターが掛からないなかでの発表について、危惧を感じるとの発言があった。

安藤大会実行委員会事務局長より、研究大会当日の自由研究発表について、最近の大会では、研究倫理的に問題があったのか、事前に手を打っておく必要があるかについて、情報があれば伺いたいとの意見があった。

水本理事からは、倫理綱領をつくり、会則を変更したため、チェックすることは可能ではあるだろうとの発言があった。

木岡会長より、チェックリストがあるならば、今回の自由研究発表申込者に事前に送り、セルフチェックをしてもらうという依頼をしてみてはどうかとの発議があり、大会実行委員会で検討することとなった。

曾余田理事より、今後の検討課題として、守りの研究倫理だけではなく、新しい研究を生み出し、推進していくための攻めの研究倫理についても、検討していきたいとの発言があった。

## 3 その他

（1）次回常任理事会日程 常任理事会議事録確認と同時に調整表を送付する。

### （2）その他

木岡会長より、大会準備金について、現状開催年度に計上しているが、前年度から準備をしている状況があり、前年度に予算計上する必要があるのではないかとの提案があり、意見交換がなされた結果、事務局で検討することとなった。

## 2. 2022年度第1回常任理事会報告

日時：2022年4月17日(日)10:00~13:00

方式：オンライン

出席者：木岡一明（会長）、青木栄一、安藤知子、貞広斎子、末松裕基、曾余田浩史、笹沙知章、南部初世、水本徳明、元兼正浩（常任理事）雲尾周（事務局長）、風岡治（事務局次長）、水野清隆、安田一郎（幹事）

欠席者：植田みどり（常任理事）、大野正親（幹事）

## <報告事項>

### 1 会務報告【事務局長】

#### (1) 会員の現況・寄贈図書

雲尾事務局長より、新入会員が2名、退会予定者が5名、除籍候補者が33名になる旨、寄贈図書は6冊になることの報告があった。

#### (2) その他

### 2 第62回大会について

安藤大会準備委員会事務局長より、実行委員会で大会HPを作成中であること、大会HPのヘリンクを学会HPに掲載してほしい旨の報告と依頼があった。

参加費については、会員は無料・非会員は1,000円、大会HPから申し込みできるようにする予定であることの報告があった。

さらに、発表原稿の締め切りは5月8日(日)、5月末に参加者用マニュアルを配布予定との期日が示された。

### 3 各種委員会報告

#### (1) 紀要編集委員会

貞広委員長より、第64号紀要の編集状況について、特集論文「エビデンスと学校経営」=3本・自由投稿論文=1本・教育経営の実践事例=1本であること、現在それぞれの著者による校正の段階であることの報告があった。

編集委員会が抱える課題として、指定の「論文フォーマット」を示してもフォーマットが順守されないなどの「論文執筆の作法」が整っていない論文・投稿が多いこと、掲載本数が増えないこと、歴史研究やデータ分析の検証が不十分であったり論証が甘い論文が多くみられたりすること、また常任編集委員の査読の過重負担への対応のために内規の修正が必要ではないか、などについて課題の提起があった。

編集委員会の申し合わせ確認の次回委員会への引き継ぎについても確認をした。第一法規より抜き刷り価格改定の照会があり、倍額程度になるが他学会と比しても同程度であり、会長とも相談の上了解をしたが、部数を少なめにして安く購入できる方法についても検討してほしいと返答した旨報告があった。

#### (2) 研究推進委員会

笠沙委員長より、予定通り進んでいることと学術研究褒賞の審査については5月下旬に報告予定との報告があった。

#### (3) 国際交流委員会

青木委員長より、(キックオフの)イベントを開催し53名の申し込みがあったこと、非会員の参加もあり英語による発表への関心の高さが窺われるといった報告があった。

6月に向けて、留学経験のある(=母国語以外で論文執筆の経験がある)会員の経験を話してもらい「まず日本語の段階でアカデミックライティングについて意識してもらうことの重要性を喚起する」企画を進行している旨の予定が示された。

#### (4) 実践推進委員会

安藤委員長より、第2回の会(38名の参加)を開催し実践事例をどう取り上げるかについて検討した旨の報告があった。今後は、6月のフォーラムと次の展開について検討していくとの報告があった。

実践研究賞については推薦が上がってきていないことの報告があり、「該当なし」として進めていく

ことが確認された。

#### (5) 新型コロナウイルス感染症対策に伴う教育経営課題に関する特別委員会 (COVID-19 対応特別委員会)

元兼委員長より、本特別委員会が令和4年3月31日に任期を満了したことと以下の6点の成果(①学会大会への貢献、②マンスリー研究会の開催、③特別委員会HPの開設、④国際化への対応、⑤外部資金(科学研究費)の獲得、⑥特別委員会の収支)についての報告があった。

### 4 担当理事活動方針・予定等について

#### (1) 褒賞担当

水本委員長より、名誉会員制度等の課題の整理と検討事項(①名誉会員制度の実質化、②被選挙権辞退制度の創設、③理事会による理事選任制度の創設)の提起、制度改正スケジュールの提案、他学会等の制度、規定などの情報提供がなされた。

青木理事より「日本政治学会・日本行政学会では「顧問」を設置していること、「顧問」には選挙権はあるが被選挙権はないこと、選挙で選ばれる理事以外に任命で選ばれる理事がある、それによって多様性が保たれていること」、安藤理事より「学校教育学会では学会役員の人事停滞を防ぐ目的で名誉会員制度を運用していること」の紹介があった。

#### (2) 教育関連学会連絡協議会担当

木岡会長より、2022年3月12日に開催された第10回教育関連学会連絡協議会総会について、出席52団体、欠席18団体(委任状5通)で、定足数を満たして開催されたことが報告された。また、連絡協議会に加盟している意義について、団体の目的、活動内容を振り返りながら、検討をしてほしいとの発議があった。

#### (3) 外部機関連携担当

欠席の植田理事より連絡があり、報告事項は特にないとのことであった。

#### (4) ラウンドテーブル担当

曾余田理事より、報告事項は特にないとのことであった。

#### (5) 若手ネットワーク担当

末松理事より、活動状況、大会時の研究フォーラムの持ち方についての報告があった。

#### (6) 研究倫理担当

貞広理事より、報告事項は特にないとのことであった。

### 5 その他

#### (1) 日本学術振興会賞候補者の推薦について

雲尾事務局長より、2021年度第5回常任理事会審議事項1で決定したように、事務局としては学会賞受賞者のうち3要件を満たす人を推薦したことが報告された。また推薦者の報告までの期間が短く、推薦に関係する書類作成の時間的余裕がないことが課題であるという報告がされた。

#### (2) 第26期日本学術会議会員候補者の選考方針(原案)に係る意見聴取について

木岡会長より、理事への発出メール(2022/03/03 11:50)で照会した学術会議候補者選考方針への意

見について回答した旨の報告があった。

また、木岡会長より、候補者について特定の大学に限定されないようなバランス感覚が必要である旨の意見があった。

### (3) 第13回(令和4(2022)年度)日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦について

雲尾事務局長より、学会賞受賞者(学術研究賞、研究奨励賞)に該当者がいないため、推薦を見送ることが報告された。

### (4) 紀要のEBSCOhost収録に係る契約内容の検討について

雲尾事務局長より、前回常任理事会で本学会として「諾」と回答することが承認されたため回答したところ契約書が送られてきたが、英文が正文であることから青木国際交流委員長にもお願いして内容点検を図ったところ、第一法規の契約等と抵触する可能性もあることから、第一法規と相談するため、現在契約業務を中断していることが報告された。

## <審議事項>

### 1 学会褒賞

笠沙委員長より、審査の経過についての報告がされた。英文表彰状に掲載する著作名については著者本人に確認していく必要があり、ある程度の時間的余裕が必要であることを確認した。

### 2 2021年度決算案

雲尾事務局長より、2021年度決算案が提案され常任理事会にて承認された。

### 3 2022年度予算案

雲尾事務局長より、2022年度予算案が提案され常任理事会にて承認された。また大会実行委員会による立て替え払いを避けるため、次年度(2023年度)の大会準備金も2022年度予算に計上してある趣旨を確認した。

### 4 2022年度全国理事会・総会次第

雲尾事務局長より、2022年6月3日(金)開催予定の理事会および翌4日(土)開催予定の総会の次第それぞれについて説明があり、審議の結果承認された。

将来構想検討プロジェクトとラウンドテーブルについては、1つの項目にまとめる形で修正することとなった。

理事会次第について、あいさつ(会長あいさつ・実行委員長あいさつ)は、会務報告とは別立ての項目とすることになった。

### 5 2022年度第1回学会ニュースについて

雲尾事務局長より、2022年度第1回学会ニュースの構成と日程について説明があり、審議の結果、構成は承認され、7月30日発行のスケジュールについても認められた。

各種委員会等報告に将来構想検討プロジェクトの報告を追加することとなった。

### 6 その他

#### (1) 法人会員の扱いについて

風岡事務局次長より、法人会員希望があり、その扱いについて審議の結果、本学会の会則に法人会員の規定はなく法人扱いでの入会は認められないことを確認した。

シクミネット上の「法人会員」のフォームが削除できるかについては事務局から照会することを確認した。

青木理事より、会員種別を増やすことは事務局の事務負担増にもつながるため避けるべきとの意見をいただいた。

## <協議事項>

### 1 情報関係について

#### (1) 情報のアーカイブ化・学会ホームページについて

雲尾事務局長より、情報のアーカイブ化・学会ホームページへの掲載基準についての原案が示され、学会HPへの掲載、メール配信、非メール会員への郵送等の対応について、協議を行った。

### 2 研究倫理の推進について

雲尾事務局長より、研究倫理に関するこれまでの協議概要の説明があり、研究倫理に関する「チェックリスト」の策定などについての提案があった。

安藤理事より、2022年度大会の発表については、大会実行が独自に作成したチェックリストで処理を進めていることの報告があった。

倫理綱領に基づいたチェックリストの策定など、今後も継続して審議していくことが確認された。

### 3 本学会のあり方について（自由討議）

#### (1) 将来構想検討プロジェクトの審議状況

曾余田理事より、研究倫理は実務家だけの問題なのか、研究者教員も含めてのものなのかどう捉えていいか迷っている。最近の大学などからの研究倫理というリジットな形で来るものは、教育経営実践とはなじまない部分があるのではないかと考える。そのうえで「倫理と作法」の整理を今後、進める必要があるのではないかとの発議があった。

#### (2) 意見交流

青木理事より、研究倫理審査を受けることがコモンセンスであることを、実務家だけではなく広く学会として共有する必要がある旨の意見があった。

貞広理事より、倫理的妥当性の担保は不可欠であること。倫理とクオリティーの区分が必要で、倫理の問題はクリアしていくことが必要であるとの意見があった。

南部理事より、急遽対応が必要な問題と論文の質的な問題とを整理して進める必要があること、共同研究の成果は誰のものかという問題も発生してきている旨の意見があった。

末松理事より、法令順守や倫理について、研究の仕方・教育の仕方を考える必要があるとの意見があった。

本学会特有の問題の整理を進め、実務家と研究者がコラボレーションできる環境づくりなど、今後も継続して検討する必要があるとされた。

### 4 その他

#### (1) 次回常任理事会日程 理事会、総会、大会終了後、調整表を送付する

#### (2) その他

特になし。



### 3. 2022年度全国理事会報告

日時：2022年6月3日(金) 15:15~16:25

場所：オンラインによる開催

出席者：木岡一明(会長、愛知教育大学(非))、○青木栄一(東北大学)、天笠茂(千葉大学(名))、○安藤知子(上越教育大学)、○植田みどり(国立教育政策研究所)、臼井智美(大阪教育大学)、大竹晋吾(福岡教育大学)、大野裕己(滋賀大学)、柏木智子(立命館大学)、加藤崇英(茨城大学)、川上泰彦(兵庫教育大学)、北神正行(国士舘大学)、高妻紳二郎(福岡大学)、○貞広齋子(千葉大学)、佐藤博志(筑波大学。16時過ぎから)、○末松裕基(東京学芸大学)、諏訪英広(川崎医療福祉大学)、○曾余田浩史(広島大学)、○笠沙知章(京都教育大学)、露口健司(愛媛大学)、○南部初世(名古屋大学)、浜田博文(筑波大学)、平井貴美代(山梨大学)、○水本徳明(同志社女子大学)、○元兼正浩(九州大学)、八尾坂修(玉川大学・九州大学(名))、山下晃一(神戸大学)【以上理事。○は常任理事】

雲尾周(事務局長、新潟大学)、風岡治(事務局次長、愛知教育大学)【以上事務局】

欠席者：勝野正章(東京大学)、佐古秀一(鳴門教育大学)、佐藤晴雄(日本大学)、篠原岳司(北海道大学)、武井敦史(静岡大学)、玉井康之(北海道教育大学)【以上理事】

大野正親(幹事、清林館高等学校)、水野清隆(幹事、稲沢市立稲沢東小学校)、安田一郎(幹事、一宮市立中部中学校)【以上事務局】

#### 1 会長挨拶(木岡会長)

#### 2 大会実行委員長挨拶(菅原委員長)

#### 3 議事

##### <報告事項>

##### 1 2021年度会務報告

雲尾事務局長より、資料に基づき、2022年5月31日現在の会員総数607名、その内2021年6月1日から本年5月31日までの新入会員は26名、退会者は物故者1名を含む16名であること、2年間の会費未納者が29名であり会員資格を失うこと、寄贈図書は、26冊であることが報告された。

##### 2 各種委員会報告・担当理事報告

###### (1) 紀要編集委員会

貞広委員長より、資料に基づき、編集委員会の活動状況、紀要64号の投稿・審査を3回としたことなどの編集経過の報告がされた。また投稿数の増加・紀要掲載数の増加、実践事例の検証・研究倫理への対応などが、今後も継続対応が必要な課題であることが提言された。

###### (2) 研究推進委員会

笠沙委員長より、資料に基づき、委員会の活動状況、研究動向レビュー、課題研究報告、学術研究賞についての報告があった。

学術研究賞については、1件の推薦があり、審査委員会を立ち上げ、審議、審査を行ったことが報告された。

###### (2) 国際交流委員会

青木委員長より、資料に基づき、英語論文執筆に関するセミナーの開催などの委員会活動状況、2022年7月開催予定のオンラインイベントや関連学会との国際交流委員会との連携を深めること、二次出版への対応などの今後の活動予定について報告がされた。

#### (4) 実践推進委員会

安藤委員長より、資料に基づき、活動方針と活動のゴール、活動報告、実践事例研究会の開催、今大会の実践研究フォーラムの概要について報告があった。また、実践研究賞については自薦・他薦とも申し出がなかった旨が報告された。

#### (5) 新型コロナウイルス感染症対策に伴う教育経営課題に関する特別委員会

元兼委員長より、資料に基づき、2022年3月31日に委員会の任期が満了したことのほか、学会大会での活動、マンスリー研究会の開催、特別委員会ホームページの開設、国際化への対応、外部資金(科学研究費)の獲得、特別委員会の収支について報告があった。

#### (6) 褒賞担当

水本担当理事より、資料に基づき、名誉会員制度及び役員選挙それぞれの課題について提起があり、その対応の方向性が示された。さらに名誉会員制度及び役員選挙など、制度改正に関するスケジュールの報告がされた。

木岡会長から、長年、貢献のあった会員の退会増や理事登用の閉塞など名誉会員制度・役員選挙の検討が必要となっている背景についての補足説明があった。

#### (7) 教育関連学会連絡協議会担当

末松担当理事より、資料に基づき、教育関連学会連絡協議会の総会及び同日に開催されたシンポジウムの概要、今後の活動予定について報告がされた。

木岡会長から、教育関連学会連絡協議会の活動停滞を鑑み、同協議会への加入継続については検討の必要があることが提起された。

#### (8) 外部機関連携担当

植田担当理事より、外部機関連携上の課題および今後の連携計画案について報告がされた。

#### (9) 将来構想検討プロジェクト・ラウンドテーブル担当

曾余田担当理事より、資料に基づき、本担当の目的、活動報告、課題、活動予定について報告がされた。

#### (10) 若手ネットワーク担当

末松担当理事より、資料に基づき、担当の活動方針と運営状況、活動状況及び今大会の「若手研究者のための研究フォーラム」の報告・紹介がされた。

#### (11) 研究倫理担当

貞広担当理事より、実践事例と研究倫理に関しての担当の活動状況の報告がされた。

### 3 その他

特になし。

#### <審議事項>

##### 1 2021年度決算案・会計監査報告

雲尾事務局長より、2021年度決算案の収支の概要、コロナ対応に伴う2021年度予算の特殊事情に

ついて説明がされた\*。次いで小出会計監査から適正に会計処理がなされている旨、監査報告がなされた。

木岡会長から、予備費の執行についての補足説明\*\*があった。

これらを受けて、2021年度決算が承認された。

\*その他収入が145万6644円とたいへん多いことについて、各種委員会が3年間の任期を終え払い戻しがあった、さらに通常は使い切ることが多いがコロナ禍の活動抑制により未使用分が多かった。大会開催校についても同様。

\*\*2021年度予算では、関係機関連携費、ラウンドテーブル活動費、若手ネットワーク活動費はいずれもゼロ配当だったので項目としての執行はゼロであり予備費から執行した。

活動が見込まれるのであれば予算措置をすべきであった。

## 2 2022年度予算案

雲尾事務局長より、2022年度予算案の提案と大会準備金などについての説明\*が示され、承認された。

\*大会準備金については、例年当該年度大会準備金65万円だけであった。しかし、実際6月の大会が終わると次年度の大会校は準備に入るので、次年度4月に入るまでは立替払いが生じるなどの問題が生じる。決算で説明したように本年度予算には特別に余裕があるため、次年度大会準備金65万円も予算計上し、次年度大会校の円滑な運営に資することとした。来年度以降は本費目では2大会合計の130万円ではなく、次年度大会準備金65万円のみに戻る予定である。

## 3 学会褒賞

水本担当理事より、功労賞・実践研究賞・学術研究賞・研究奨励賞については該当者がなかったことが報告され、承認された。

また資料に基づき、名誉会員制度、役員選挙など、制度改正の方向性とスケジュールについて提案され、了承された。

## 4 第63回大会(2023年度)開催校

木岡会長より、2023年度第63回大会について筑波大学に依頼し、内諾を得られたことが報告され、筑波大学を開催校としたい旨、提案があり承認された。

筑波大学の浜田博文会員より、開催に向けた挨拶があった。

## 5 2022年度総会次第

雲尾事務局長より、2022年度の総会次第が示され、承認された。

## 6 その他

青木理事より、役員選挙への電子投票の導入予定の有無についての質問があり、事務局の負担軽減に向けた提案があった。

## 4. 2022年度総会報告

日時：2022年6月4日(土) 16:45~18:00

場所：オンライン開催

## 1 会長挨拶 (木岡会長)

## 2 大会実行委員長挨拶 (菅原委員長)

## 3 議長団選出

川口有美子会員、湯藤定宗会員が議長団として選出された。

定足数確認：会員数 579 名、参加者 82 名+委任状 122 名 計 204 名、会員数の 1/3 (193 名) を超えており本総会の成立を確認した。

## 4 議事

### 報告事項

#### (1) 2021 年度会務報告

雲尾事務局長より、2022 年 5 月 31 日現在の会員総数 607 名、新入会員 26 名、退会者 16 名(物故者 1 名含む)、会費未納者 29 名、寄贈図書等について、資料に基づき報告がされた。

#### (2) 紀要編集委員会報告

貞広委員長より、資料に基づき、編集委員会の活動状況、紀要 62 号の投稿・審査を 3 回としたことなどの編集経過の報告がされた。また投稿数の増加・紀要掲載数の増加、実践事例の検証・研究倫理への対応などが、今後も継続対応が必要な課題であることが提言された。

浜田博文会員より、これらの報告内容に対して他学会の状況を交えながら、掲載論文の本数を増やすことが本学会員の持っている知見の継承にもつながるため、学会の研究成果を発信するという観点からも、紀要掲載数の増加、そのための掲載率の向上が大切である旨の意見があった。

#### (3) 研究推進委員会報告

竺沙委員長より、資料に基づき、委員会の活動状況、研究動向レビュー、課題研究報告、学術研究賞についての報告があった。

学術研究賞については、1 件の推薦があり、審査委員会を立ち上げ、審査、審議を行ったことが報告された。

#### (4) 国際交流委員会報告

青木委員長より、資料に基づき、英語論文執筆に関するセミナーの開催などの委員会活動状況、2022 年 7 月開催予定のオンラインイベントや関連学会の国際交流委員会等との連携を深めるなどの今後の活動予定について報告がされた。

#### (5) 実践推進委員会報告

安藤委員長より、資料に基づき、活動方針と活動のゴール、活動報告、実践事例研究会の開催、今大会の実践研究フォーラムの概要について報告がされた。

#### (6) 新型コロナウイルス感染症対策に伴う教育経営課題に関する特別委員会

元兼委員長より、資料に基づき、2022 年 3 月 31 日に委員会の任期が満了したことのほか、学会大会での活動、マンスリー研究会の開催、特別委員会ホームページの開設、国際化への対応、外部資金(科学研究費)の獲得について報告がされた。

**(7) 褒賞担当理事報告**

水本担当理事より、功労賞・実践研究賞・学術研究賞・研究奨励賞については該当者がなかったことが報告された。

また資料に基づき、名誉会員制度、役員選挙など、制度改正の方向性とスケジュールの報告がされた。

**(8) 教育関連学会連絡協議会報告**

末松担当理事より、資料に基づき、教育関連学会連絡協議会の総会及び同日に開催されたシンポジウムの概要、今後の活動予定について報告がされた。

**(9) 外部機関連絡担当報告**

植田担当理事の代理として雲尾事務局長より、外部機関連携上の課題および今後の連携計画案について報告がされた。

**(10) 将来構想検討プロジェクト・ラウンドテーブル報告**

曾余田担当理事より、資料に基づき、本担当の目的、活動報告、課題、活動予定について報告がされた。

**(11) 若手ネットワーク報告**

末松担当理事より、資料に基づき、担当の活動方針と運営状況、活動状況及び今大会の「若手研究者のための研究フォーラム」の報告、紹介がされた。

**(12) 研究倫理担当報告**

貞広担当理事より、実践事例と研究倫理に関しての担当の活動状況の報告がされた。

**(13) その他**

特になし。

**<審議事項>****(1) 2021 年度決算案・会計監査報告**

雲尾事務局長より、2021 年度決算案について説明された。それに次いで織田会計監査から監査報告と予備費費目に関する要望がなされた。以上を踏まえて、Zoom の投票機能を使って決算案が承認された。

**(2) 2022 年度予算案**

雲尾事務局長より、2022 年度予算案が示され、Zoom の投票機能を使って承認された。

**(3) 第 63 回大会 (2023 年度) 開催校**

木岡会長より、2023 年度第 63 回大会の開催について筑波大学に依頼し、快諾を得た旨の報告のうえで、開催校を筑波大学とする提案があり、Zoom の投票機能を使って承認された。

筑波大学の浜田博文会員より、開催に向けた挨拶があった。

**(4) その他**

特になし。

## 5 事務連絡等

懇親会について大会実行委員会より連絡があった。

資料 2021年度決算

(略)

資料 2022年度予算

(略)



## 5. 第62回大会報告(大会実行委員長 菅原 至)

日本教育経営学会第62回大会は、2022年6月3日(金)から5日(日)の3日間、上越教育大学が担当校となりオンラインにて開催されました。臨時会員を含む大会参加者は約180名でした。オンラインながらも多数の会員のみなさまにご参加いただき、心より感謝申し上げます。

今回の大会における自由研究発表は、土、日両日で8分科会が設定され、全31件の研究発表となりました。実践事例から理論的考察に及ぶ幅広い研究が報告され、活発な議論がなされました。公開シンポジウムは、「新しい教育の形と教育経営」というテーマで、葦澤篤氏(十日町市社会教育委員)、荒井英治郎氏(信州大学)、末富芳氏(日本大学)の3氏から実践や理論的課題についてご報告をいただきました。ポストコロナの社会状況、こども基本法とこども家庭庁の設置議論なども視野に含めつつ、これからの社会と学校のつながりのあり方、問題を捉える視座などについて多くの意見交換がなされ、大変活発な議論となりました。

この他、学会の委員会企画として、初日には若手研究者のための研究フォーラムが「若手研究者が考える教育経営学研究の現在地と展望」と題して実施されました。活発な意見交換が行われるとともに、フォーラム終了後もzoom上でざくばらんな交流が行われ、若手研究者のネットワークづくりに有益な機会となりました。また、日曜日の研究推進委員会による課題研究は「教育経営学研究の新機軸の探究(1)」と題して教育経営学研究の在り方が議論され、実践推進委員会による実践研究フォーラムでは「日本教育経営学会における教育経営実践事例とは何か」と題して教育経営研究の中での実践事例の位置づけが議論されました。理論と実践の両面から教育経営学の今日的課題を捉え、そのありように向き合おうとする会員各位のご参加によりいずれも盛会となりました。

以上、会員の皆様のご協力により、無事今回の大会を終えることができました。実行委員一同、心より御礼を申し上げます。学会大会開催のご指名をいただいた時点では、皆様に上越の地へ足をお運びいただくことも念頭におきながら準備を始めましたが、比較的早い段階で3回目のオンライン大会へと舵を切らせていただきました。「そろそろ対面で」、との声も聞かれる中でしたが、様々なリスクを避けつつ、できる限り例年通りのプログラム実施をできるように判断し、取り組んでまいりました。結果的に大きな問題もなく各プログラムを進行できましたことに安堵しております。実行委員会の力不足などにより、当日発表資料の共有方法やタイムキープの方法など、若干の問題もあったかもしれませんが、何とぞその熱意に免じてご容赦頂ければ幸いです。

次の第63回大会は、筑波大学において開催される予定です。皆様のお力添えにより、いよいよ当地に参集しての大会となることを、心より祈念致しております。

## 6. 各種委員会等報告

### 1 紀要編集委員会(紀要編集委員会委員長 貞広 斎子)

常任理事会報告、全国理事会報告、総会報告をご参照ください。

### 2 研究推進委員会報告(研究推進委員会委員長 竺沙 知章)

常任理事会報告、全国理事会報告、総会報告をご参照ください。

### 3 国際交流委員会報告(国際交流委員会委員長 青木 栄一)

常任理事会報告、全国理事会報告、総会報告をご参照ください。

### 4 実践推進委員会報告(実践推進委員会委員長 安藤 知子)

常任理事会報告、全国理事会報告、総会報告をご参照ください。

**5 新型コロナウイルス感染症対策に伴う教育経営課題に関する特別委員会報告(委員長 元兼 正浩)**  
常任理事会報告、全国理事会報告、総会報告をご参照ください。

**6 将来構想検討プロジェクト(担当理事 曾余田 浩史)**

本担当(プロジェクト)の目的は、本学会の今後のビジョンとそのロードマップの方向性やたたき台をつくっていくことです。学会の近年の動向として、実践的有意義性ととも学問的厳密性をいかに求めていくかという課題に直面しています。その中で、研究倫理や論文・事例の判定基準のあり方が問われています。そこで今年度は、オンライン研究会「教育経営学における『研究倫理』を考える」(9月、12月を予定)を企画しております。本学会をより豊かにする・多様な人が参加可能となるよう、学会活動の基盤としての「研究倫理」に焦点を当てて、本学会のこれからのあり方を考えたいと思います。詳しくは後日、本学会メールにてご案内申し上げます。多数の皆さまのご参加をお待ちしております。

**7. その他**

**★会員の現況(2022年5月31日現在)★**

(1) 会員総数 607名

地区	北海道 東北	関東	中部	近畿	中国 四国	九州 沖縄	海外	合計
会員数	62	201	96	125	69	52	2	607

(3) 新入会員 26名(2021.6.1~2022.5.31)

(略)

(3) 退会者(2021年度) 16名(物故者を含む)

(略)

物故者 1名

(略)

(4) 会費未納による除籍者 29名

★寄贈図書★(2021.8.30~2022.5.31)以下の順は事務局到着日時による

- 本図愛実編著、貞広齋子、山下絢、米原あき、倉光恭三、丸山千佳子、加藤聖一、笹村恵司著『グローバル時代のホールスクールマネジメント』、ジダイ社、2021年9月
- 国立教育政策研究所『「社会情緒的(非認知)能力の発達と環境に関する研究：教育と学校改善への活用可能性の視点から」(学校改善チーム)中間報告書(米国・中国調査)』、2021年8月
- 阿内春生著『教育政策決定における地方議会の役割ー市町村の教員任用を中心として』、早稲田大学エウブラクシス業書031、早稲田大学出版部、2021年11月
- 鳥居朋子著『大学IRと学習・教育改革の諸相ー変わりゆく大学の経験から学ぶ』、玉川大学出版社、2021年12月
- 京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーションセンター監修、南部広孝編著『検証 日本の教育改革ー激動の2010年代を振り返る』、学事出版、2021年10月
- 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科論文集『学校教育学研究論集』第44号、2021年10月
- ダン・ローティ著、佐藤学監訳、織田泰幸、黒田友紀、佐藤仁、榎景子、西野倫世翻訳『スクーールティーチャー 教職の社会学的考察』、学文社、2021年11月
- 中村高康、松岡亮二編著『現場で使える教育社会学ー教職のための「教育格差」入門』、ミネルア書房、2021年10月

- 東京大学大学院教育学研究科『教育行政学論叢』第41号、2021年10月
- 国立教育政策研究所『「社会情緒的(非認知)能力の発達と環境に関する研究：教育と学校改善への活用可能性の視点から」(発達調査チーム) 研究報告書 新型コロナウイルス感染症流行下における児童生徒の社会情緒的(非認知)能力をめぐる状況：流行初期に関する文献調査』、2021年11月
- 文教大学教育研究所『教育研究所紀要 特集：「持続可能な開発目標(SDGs)の視点をふまえた教育実践』第30号、2021年12月
- 萩野亮吾著『地域社会のつくり方 社会関係資本の醸成に向けた教育学からのアプローチ』、勁草書房、2022年1月
- 鈴木雅博著『学校組織の解剖学 実践のなかの制度と文化』、勁草書房、2022年1月
- アンディ・ハーグリーブス、マイケル・フラン著、木村優、篠原岳司、秋田喜代美監訳『専門職としての教師の資本—21世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』、金子書房、2022年1月
- 雲尾周著『学校の安全・地域の安全～地域学校協働活動と生涯学習が守る～』、新潟日報事業社、2022年2月
- 鈴木悠太著『学校改革の理論 アメリカ教育学の追求』、勁草書房、2022年2月
- 本多正人、川上泰彦編著、小川正人、植竹丘、櫻井直輝著『地方教育行政とその空間 分権改革期における教育事務所と教員人事行政の再編』、学事出版、2022年2月
- 湯田拓史著『奨学生への指導手引—授業料無償化政策以降の指導助言—』、Swing-By ブックレット、2022年1月
- 園山大祐、辻野けんま編著『コロナ禍に世界の学校はどう向き合ったのか—子ども・保護者・学校・教育行政に迫る』、東洋館出版社、2022年2月
- 石井拓児著『学校づくりの概念・思想・戦略 教育における直接責任性原理の探求』、春風社、2021年12月
- 一斉休校・教育委員会対応検証プロジェクト企画／末富芳編著、元兼正浩、佐藤博志、柏木智子、篠原岳司、葉養正明著『一斉休校 そのとき学校はどう動いたか?』、明石書店、2022年3月
- 東京学芸大学次世代教育研究センター『紀要』第3号、2022年3月
- 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育経営学研究室『教育におけるアドミニストレーション』第24号、『地域教育経営に学ぶ』第24号、2022年3月
- 国立教育政策研究所『客観的根拠を重視した教育政策の推進に関する基礎的研究報告書』2022年3月
- 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科『学校教育学研究論集』第45号、2022年3月
- 大塚学校経営研究会『学校経営研究第47巻』2022年4月

## ★事務局からのお知らせとお願い★

(1) 2020年4月から会員管理システム「シクミネット」の運用を開始しております。会費納入管理や会員のみなさまの会員情報管理のために、『シクミネット』の利用・活用にご協力ください。『シクミネット』の詳細については学会HPを参照ください。

2022年度の会費納入をお済ませでない方は、「マイページ」にログインの上、ご自身の情報の確認や会費の納入をお済ませください。会費は年額8,000円です。早期のお支払い(遅くとも年度内の納入)にご協力願います。なお、2年間以上会費の納入を怠った場合(2020年度会費未納の場合)、会則第6条にもとづき、会員資格を失いますのでご注意ください。

ご自身のログインID(会員番号)が不明な方は、その旨を学会事務局のメールアドレス(jimu@jasea.jp)までご連絡ください。

会費納入状況については、「マイページ」にてご確認ください。それが難しい場合には、学会事務局までお問い合わせください。

- (2) 2020年4月より、入会を希望される方は、推薦人の会員番号を会員管理システム「シクミネット」に入力いただくことが必須となりました。推薦人になろうとされている会員でご自身の会員番号が不明な方は、その旨を学会事務局のメールアドレス(jimu@jasea.jp)までご連絡ください。
- (3) 2020年度以降、学会事務局からのご連絡のほとんどは、一斉メール等の電子メールでのご連絡とさせていただきます。また学会事務局へメールアドレスをお伝えでない会員におかれましては、お手数ではございますが、ご氏名とメールアドレスを学会事務局のメールアドレス(jimu@jasea.jp)までお送りくださいますようお願い申し上げます。また、一斉メールを通じたご連絡では、差出人につきまして「日本教育経営学会 マイページ(管理者)」と表示されます。これまでに、大会の延期や総会の開催方法、会費納入等に関するご案内をお送りしております。恐れ入りますが、一斉メールを通じたご連絡が届いていらっしゃらない会員におかれましても、事務局のメールアドレスまでご一報いただきますようお願い申し上げます。
- (4) 2022年度・2021年度の会費を納入済みの方で、学会紀要第64号・63号をまだ受け取っておられない方は、お手数ですが学会事務局までご連絡ください。
- (5) 住所・所属等の変更がありました場合は、シクミネットの「マイページ」にログインの上、ご自身でそれらの情報の修正を済ませて下さい。「マイページ」にログインできない会員におかれましては、住所・所属等の変更の旨を事務局までお知らせください。
- (6) お電話でのお問い合わせには、ご返答にお時間をいただく場合がございます。お急ぎの際はなるべく電子メールでお問い合わせいただきますよう、お願い申し上げます。
- (7) 学会に関する情報は学会ホームページにも掲載いたしております。お問い合わせの前にご確認ください。よろしくお願いいたします。
- (8) 残部の多い紀要バックナンバーについて、各会員の研究に資することを目的に、1部500円(送料は申込者負担で原則着払い)で販売しております。対象号は、30、31、34、37、38、43、44、47、50、51、52、53、54、55、56、57号です。ご希望の方はお知らせください。この価格での販売は会員のみが対象になります。ただし、受付順に対応させていただきますので、ご希望に沿えない場合があることをご了解ください。

### 発 行 元

**事務局** : 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1  
愛知教育大学 教育支援専門職養成課程 教育ガバナンス講座 風岡研究室内  
電話 0566-26-2559  
E-mail [jimu@jasea.jp](mailto:jimu@jasea.jp)  
\*お電話でのお問い合わせへの回答にはお時間をいただく場合がございます。

**学会費振込口座** : 郵便振替口座 加入者名: 日本教育経営学会  
口座番号: 00150-4-599392  
銀行口座 銀行名: ゆうちょ銀行  
店名: 〇一九(ゼロ・イチ・キュウ)  
預金種目: 当座預金  
口座番号: 0599392